

認知症地域医療支援事業について

資料2-(2)

認知症の対応に習熟した医師を対象に、かかりつけ医に対するサポートの仕方、かかりつけ医に対する研修の講義方法等について研修を行うとともに、かかりつけ医に対する認知症対応力の向上を目的とした研修を行い、地域における認知症高齢者に対する支援の充実を図る。

認知症サポート医の役割

- 1 かかりつけ医に対する認知症診断等に関する助言・相談
かかりつけ医の認知症対応力の向上
- 2 「かかりつけ医(主治医)認知症対応力向上研修」での研修内容の企画や講師役
- 3 専門医療機関、地域包括支援センター、地区医師会等との連携
地域における認知症の早期発見
認知症高齢者への支援体制の構築

認知症
サポート医

研修実施

認知症サポート医のイメージ

- 1 「かかりつけ医」として、地域において在宅医療に従事している
- 2 在宅医療を通して、専門医療機関、ケアマネージャー、介護サービス事業者、訪問看護ステーション等と連携を行い、関係機関とのネットワークを構築し、活用している
- 3 認知症の診断経験が多く、生活上の支援を含め、現に認知症に対応している

認知症サポート医養成研修(国庫補助事業)(H17~)

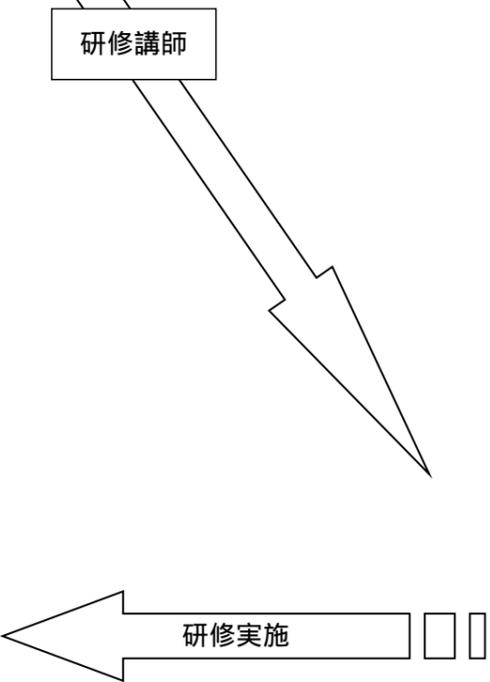
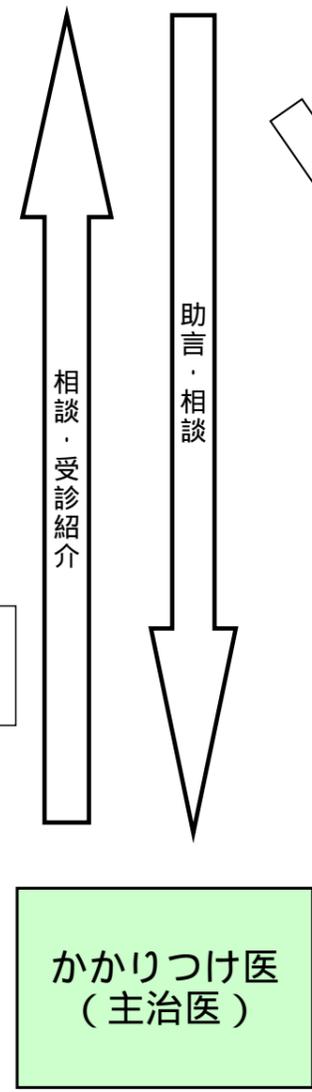
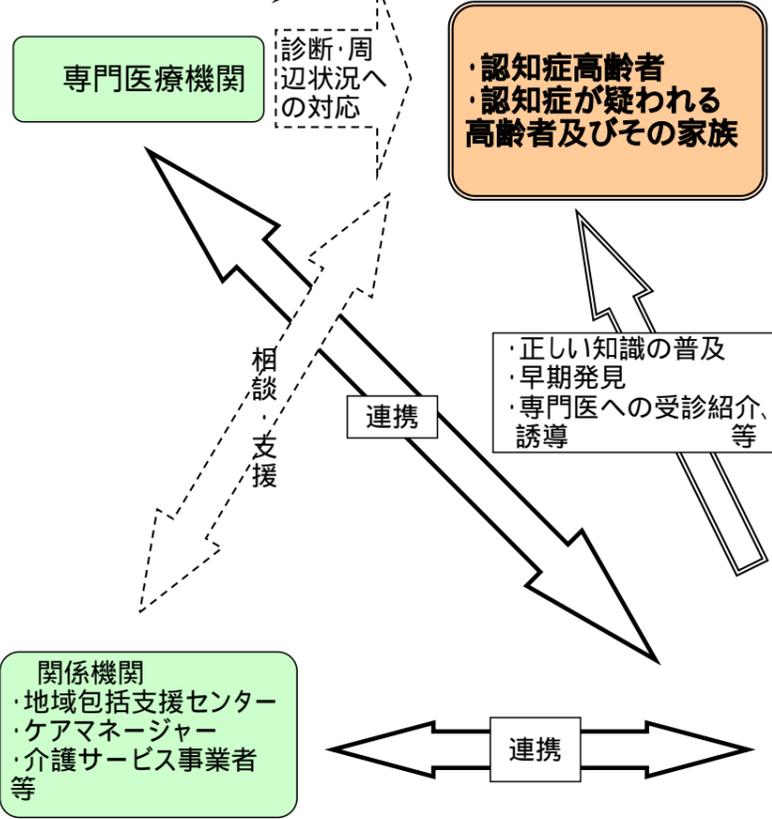
地域において在宅医療に従事し、認知症の対応に習熟している医師等を対象として、かかりつけ医(主治医)への助言等の支援を行う認知症サポート医を養成する。

研修内容

- ・「かかりつけ医認知症対応力向上研修」の企画立案に必要な知識及び効果的な教育技術
- ・認知症高齢者を支えるために必要な介護分野の知識、関係機関との連携のために必要な知識・技術

事業展開

- ・平成18、19年の2年間で、各区市町村に1~2名程度のサポート医を養成
- ・18年度までに54名のサポート医を養成、19年度は57名



**かかりつけ医(主治医)
認知症対応力向上研修(国庫補助事業)(H18~)**

日常的に高齢者やその家族と接するかかりつけ医(主治医)を対象に、認知症の早期発見・早期対応の重要性を理解し、地域の中で家族と共に高齢者本人を支えていくための対応力向上を図るための研修を行う。

研修内容

- ・認知症に関する知識
- ・認知症に関する診断
- ・認知症に関する治療とケア
- ・介護保険サービスとの連携、家族・介護者への支援 等

事業展開

- ・平成18年度以降、地区医師会を単位として、のべ5,000人程度の研修受講を目標
- ・18年度はのべ23回(727名)の研修を開催。19年度はのべ48回(1,920名)の研修予定。